

第2回太田市ごみ減量市民会議 議事録

○日 時

平成25年10月30日（水）13時30分～16時

○場 所

太田市清掃センター3F厚生室

1. 開 会
2. あいさつ（太田市ごみ減量市民会議 会長 高橋 輝明）
3. 報 告（事務局）

①第1回会議の概要及び各委員からの調査要望事項の報告について

1) 第1回太田市ごみ減量市民会議の概要について

事務局から「第1回太田市ごみ減量市民会議」の協議内容について各委員へ報告。

また、事業者代表の委員から「できることからエコチャレンジ」の冊子を配付してもらい、事業所で取り組んでいる「5R・ごみの分別17品目」について紹介。

2) ごみの組成分析について

第1回太田市ごみ減量市民会議で委員よりごみの組成について調査依頼があり実施結果について報告。

・太田市全域から無作為にもえるごみ袋を回収し、ごみの組成分析を実施。結果については、雑がみ、ペットボトルを主にした資源ごみが約23%含まれており、分別の徹底によりもえるごみの減量が図れることを報告。

3) ごみステーションの管理及び事業系ごみの排出者責任について

・ごみステーションの維持管理責任について

根拠法令「太田市ごみステーション設置及び管理に関する要綱」の第4条で、ごみステーション設置申請は、地域の環境保健委員長が申請者となっており、第9条でステーションの利用者は、ステーションの保持に努め、第10条、11条で、集合住宅の維持管理については、選任された管理責任者が行うことを説明。

- ・事業系ごみの排出者責任について
根拠法令「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」第3条で、事業者の排出者責任としており、また、「太田市廃棄物の処理及び清掃に関する法律」第4条で、事業者は、排出したごみについて自ら処理することとなっていることを説明し、事業者は、自らごみを清掃センターに持ち込んで処分するか、収集業者に委託してもらうことになっているので、清掃センターとしても事業者にも周知徹底していきたい。

4) 枝・草の乾燥実験について

枝・草を3日間乾燥させた場合、実際の重量より少なくなり、ごみ減量につながる実験結果を報告。また、詳しい内容は、清掃施設管理課のホームページにも掲載していることも報告。

②新炉建設に係るごみ排出量の減量化予測について

- ・平成23年度から炉の老朽化により新炉建設について太田市・大泉町・邑楽町・千代田町で協議を重ね、平成25年度7月に市長・町長の最終判断を経て基本方針が決定する。
- ・基本方針の内容は、現在、太田市清掃センターのある敷地に建設。安定した処理を可能とするストーカー方式・熱を使用した発電式を採用。その基本方針に基づき、現在、「ごみ処理基本計画」を策定中である。ごみ処理基本計画の太田市外三町減量化の目標は以下のとおり。

	平成30年度	平成40年度
1日1人あたりの家庭系ごみ排出量	740 g	718 g
事業系ごみ排出量	26,672 t	25,960 t

ただし、現在、策定中であり、11月から市民のパブリックコメントをいたたぎ、内容は確定していく予定。

報告事項についての委員からの意見・質問

委員 草は堆肥化できる資源であり、燃やすことはしない方がよい。先に説明した組成分析でなぜ生ごみや草等の分別はないのか。

事務局 生ごみや草等は今回の配布資料では、燃えるごみの分類としている。この資料は、ごみの組成を調べることにより、もえるごみの中にどのくらい資源ごみが含まれているか調査したもので、分別の徹底によりどのくらいの減量が可能か実態把握をしたものなのでご理解をお願いしたい。

委員 事業系ごみは、太田市の指定袋を買えばステーションに出せてしまうが、清掃センターではどのような対応しているのか。

事務局 太田市清掃センターでのスタンスは、事業系ごみは、ステーションには出せないとの認識であり、事業者に周知にもしている。

委員 しかし、現状は、事業系ごみが減っていて、家庭ごみが増えている。このことは、事業系ごみが指定袋に入れられ、ごみステーションに出されている可能性が多大にあり、清掃センターの対応が曖昧になっているからではないか。事業系ごみの対応をきちんとしないと、各家庭に減量を徹底しにくくなるのではないか。

事務局 先程も説明させていただいたが、清掃センターでも事業系ごみの処理は、事業者でお願いしたいという周知等対応はしている。今後も事業者理解が得られるような周知・啓発をしていきたい。

委員 第1回目ごみ減量市民会議の資料で、太田市民1人あたり1日のごみ排出量1072gは、どんな根拠から出た数値なのか。

事務局 国からの指導ですべてのごみ（資源ごみも含む）を人口で割っています。

委員 もし、先程の数値（1072g）から減量数値を考える場合、資源も排出量として足されているため、減量数値が算出できないと思うがどのように考えるか。

事務局 減量数値は、お手元の資料の新焼却炉建設のための「ごみ基本計画」で示してある太田市の家庭ごみ排出量 平成24年度実績1人1日あたり736gを元に考えたい。

委員 それが適当と思う。

事務局 11月10日に開催される「太田市産業・環境フェスティバル」の会場でごみ減量・リサイクルについての市民の認識を把握するため、「ごみ減量市民会議」として、アンケートを実施したらどうかというご意見があったが、そのことについてはどうか。

委員 アンケートの実施場所はどこか。

事務局 当課で会場内に「エコステーション」を設置するが、そこで市民に記入いただき回収したい。協力者には、減量のための粗品等配布したい。

委員 「太田市産業・環境フェスティバル」では、多数の団体が出店しているので、関係団体にアンケートの実施を依頼したらどうか。アンケートの記入により市民のごみ減量についての意識を持ってもらうこともでき、市民運動も高まってくるのではないか。

事務局 「産業・環境フェスティバル」の実行委員会の事務局と協議し、関係団体ブースでも実施する方向で検討したい。

委員 このアンケートを実施することは、「ごみ減量」についての意識を市民に持ってもらう意味でとても有意義だと思う。産業・環境フェスティバルで実施するだけでなく、区長会を通じて市民に実施することも検討したらどうか。

事務局 今回のアンケートについては、「ごみ減量市民会議」の検討材料として考えているが、ごみ減量市民会議の提言として、アンケートの実施を全市民に拡大すべきとのご意見があれば検討したい。

委員 「太田市産業・環境フェスティバル」の来場者は例年何人くらいか。

事務局 2万人～3万人である。

委員 内容にもよるが、アンケート実施人数は200人から300人が適当ではないか。

事務局 委員さんからのご意見のとおり300人に実施したい。
また、ごみの減量の方法の一つとして、ごみ袋の値段が影響をされると思われるので、アンケートにごみ袋の価格について問いを入れた方がいいかどうか確認したい。また、内容についてはどのようにしたら良いか。

委員 アンケートにごみ袋の価格の問いを入れることはいいと思う。

ただ単に「安い・普通・高い」の質問ではなく、ごみ袋の有料化の経緯や認識等の説明文も入れることがいいと思われる。また、比較するものとして、全国の平均的な値段も明記したほうがいい。

事務局 委員のご提案のとおり、指定袋の有料化の経緯や必要性を入れた質問を記載していきたい。

③ごみ減量施策の方向性について（自由討論）

委員 白色トレイ等は、リサイクルできているか。

事務局 白色トレイ等の回収量は、分かるが、全体の販売量は分からないため、リサイクル率が分からないが、どのような方法でリサイクルされているかは担当から説明させます。

（担当）白色トレイ等は、国の外郭団体である容器包装リサイクル協会へ排出しております。そこで、白色トレイ等を溶かして再資源化をしている。

委員 太田市内の地域別のごみの量やリサイクル率のデータはあるか。

事務局 地域別のデータはありませんが、太田市、旧新田町、旧尾島町、旧藪塚本町でのデータはあるので、ご要望があればお示ししたい。

委員 県の資料で、県内の市町村のごみの排出量やリサイクル率のランキングが出ているが、市町村によってかなりの数字の差がある。これは取り組み方等の違いから差ができるのか。

それから、先のもえるごみの組成分析の中で「雑がみ」との表現があるが、これは市民にとって分かりづらいが、どのような紙を「雑がみ」としているのか。

事務局 今回の組成分析でもえるごみ袋に入っていた「雑がみ」は、新聞の広告やダイレクトメールが大半であった。

また、県内の市町村でもリサイクル率が大きく相違している原因は、県内トップの板倉町の取り組み等見てみると資源化をする施設及びシステムが整っていることが考えられる。しかし、本市では、板倉町のように

な資源化施設の整備は予算的なこともありむずかしいと考えており、低コストでいかにリサイクルを推進していくことがこれからの課題である。

委員 雑がみやミックスペーパー等は、現在、行政センターのリサイクル倉庫や集団回収では、回収しないことが多い。清掃センターで、ミックスペーパーや雑がみの回収ルートなり示してもらえれば減量にもつながってくるのではないか。

事務局 行政センターや各地域の集団回収団体は、市内の資源回収業者に任意で売却している。資源回収業者により、扱う資源品目に相違があり、雑がみ等取り扱っている資源回収業者も紹介できるので相談いただきたい。

委員 各行政区で団体登録をして、集団回収をしているが、市内の行政区全域で行っているか調べ、次回会議に資料をいただきたい。
仮に、紙資源ごみの集団回収を全行政区で実施していないとすれば、回収していない地域ができてしまい、ごみの減量につながらないのではないか。紙資源ごみの回収を行政センターのリサイクル倉庫や地域に任せるという考え方は良くない。誰も回収しなくなればごみとなるだけである。
資源回収団体に交付している「資源ごみ回収報奨金」等の金額と紙資源ごみ行政回収を再開した場合の費用の比較説明をしていただきたい。費用対効果で行政回収をした場合のコストが安い場合もある。
各行政センターのリサイクル団体等にもリサイクル倉庫の資源ごみは、特定化しているが、地域によっては、かなり広範囲を受け持っている。あの規模のリサイクル倉庫では、保管しきれないのではないかと思うがどうか。各家庭で年、数回行われる集団回収まで、資源ごみを保管しているのがほとんどではないか。やはり資源ごみといえども、出した時に出すのが基本と思うがどうか。

事務局 市内行政区の資源回収状況については、次回会議でお示ししたい。
また、紙資源ごみの行政回収を各地区の集団回収にお願いした経緯も、次回会議で費用等の比較を書面で提示させていただきながら説明したい。

また、各行政センターのリサイクル倉庫は、24時間開いているとこ

ろがほとんどなのでご利用いただきたい。

委員 ごみステーションに「生ごみは絞って出しましょう」・「草は泥をはたいて出しましょう」等の絵のついた看板等の掲示をしたら良いのではないか。市が1年に一度リーフレットの配布をしているが見ている市民が少ないと思われるので、ごみステーションにそのような看板があれば、ごみを出す時みんなの目に付いて分別の意識が高まり良いのかと考えるが。

委員 そういった看板も良いが、もっと良いのは体験してもらうことだと思う。ルール通り出てないごみを集めて地区の人に見てもらう。そうすればごみの分別についての意識が高まると考える。

事務局 今後の検討課題とさせていただきたい。

5. その他

- ①次回の会議は、日時 11月27日（水）13時30分～、
場所 太田市清掃センター3F厚生室で行います。